

「新時代はこの未来だ 世界中全部変えてしまえば・・・(『新時代』Ado)」

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。2・3年生の在籍している生徒の皆さん全てが進級できた。おめでとう。新入生が入ってきたので、本校が大切にしようとしていることを改めて紹介する。2・3年生にとっては復習みたいなものだが、改めて確認してみしてほしい。

0 「丁寧に生きる」：命の重みを自覚し、預けられた命をより一層輝かせる

「感謝」：当たり前のことにも感謝できる心、ご縁を大切に作る心を育てる

「笑顔」：自ら楽しみ、周りも笑顔にする行動を心掛ける

「We keep on trying.」：前向きに挑戦する&教員も挑戦し続ける

学校は失敗も経験するところ：成功体験から自信を、失敗から次への糧を

「挨拶日本一」：目を見て笑顔で自然に挨拶できる習慣

「遅刻ゼロ」：約束を守り、他者を思いやる姿勢

1 「心配から信頼へ」：生徒指導の転換の継続、アップデートの継続、選択肢の拡大

2 「競争より共生で成長」：信頼に基づいた温かい人間関係、分教室との連携

3 「学校文化」の定着：TPO、挨拶・言葉遣い、制服、集合、清掃・履物、ボランティア

「挨拶日本一の高校、遅刻ゼロの高校に私たちはなる。」は、気付いている人もいると思うが、ワンピースのルフィの「海賊王にオレはなる！」をリスペクトしたものだ。2022年の「目指して」から「私たちはなる」に進化させた。一人ひとりの意識が大切なのは、言うまでもない。

Nooooooot !!

「野球にしても人生にしても、目標を決めることを大事にしている。目的がなく、生きるとはしたくない。ゴールを確認しながら、それに向かって、いつも、もっと良くなるようにやっている。」WBC日本代表、セントルイス・カージナルズ所属ラズ・ヌートバー外野手（日刊スポーツより）

人間は様々な出会いの中で生きていく。その出会いとはヒト・モノ・コトとの出会いだ。出会うタイミングによっても感じ方が変わるので、出会う時、出会う場所も重要な要素だ。彼は9歳の時に「野球日本代表になる」という目標を決めたそうだ。そのWBCでMVPとなった大谷翔平といえば花巻東高校在学中に作成した、81マスの「目標達成シート」が有名だ。高校3年の時に作ったものには「27歳でWBC日本代表 MVP」と書き込まれているそうだ。WBCの開催がコロナ禍で変更になったことを考えると、ほぼ10年前の人生設計通りだ。一度決めた目標に対して、それに向かって懸命に努力したり、工夫したり、我慢・辛抱したりすることは当然必要なことだし、それらの経験が人を成長させることは疑いのない事実だ。一步踏み出して、やってみて、挑戦してみても、努力してみても、「やればできる」と必死になってみる。そこから得られるものは、人生の上で大きな意味を持つ。そして、目標は口に出すと、周りも協力してくれる。サッカー日本代表の長友佑都選手は、昨年ワールドカップを終えた時、こう述べている。

「こんな一瞬で終わってしまうんだと。はかないですね。耐え忍んで、耐え忍んで、この時間は一瞬だけど、そのために夢を見て、苦しいことを乗り越えて頑張る続ける。サッカー選手は桜の木のようなと感じています。」たいした努力もせず、闇雲にころころと目標を変えるのは、愚の骨頂だ。

一方、人生は一度きりなのだから、ヒト・モノ・コトとの運命的な出会いによって、目標を途中で変えることは、吝（やぶさ）かではない。3学期の終業式で話したように、やらなかった後悔は、やってみて失敗した後悔よりも大きいと言われている。失敗したら次に工夫すればいい。「あの時～しておけばよかった」と悔やんでみても、タイミングを逃せば、その挑戦は意味を持たなくなることもある。「どうせ無理だから」と挑戦もせずに諦めることは最悪だ。挑戦のために一步踏み出してみると、方向転換は容易だ。これまでの我慢・辛抱の経験が次の挑戦に役に立つこともあるからだ。大切なことは、挑戦すること、覚悟を決めて取り組むことなんだと思う。

この春、新たな出会いが君を待つ。自身の成長を期待している君がいる。これを支える友がいる、家族がいる、教員がいる。せっかくの出会いを食わず嫌いでそのチャンスを逃すのではなく、食いついてみよう。待っていては、そのチャンスは逃げてしまうかもしれない。

新たな出会いはきっと、自分自身でも気づかなかった「新たな自分に出会うチャンス」でもあるのだ。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩